

文化・芸術

「scapae—ocean」

2022年、岩絵の具、アートブルー
アルミ板、110・0^{cm}×75・0^{cm}×
1・6^{cm}
(作家寄贈)

小野友三（1964年〜）

鏡面のような画面は、アルミ板の肌に沈着した絵の具の痕跡。金属板に描くという斬新な制作方法ですが、日本の伝統的な美術においても金箔（きんぱく）・銀箔がさまざまに用いられてきました。

小野友三さんは、こすり取ってもなお残る痕跡への関心から、アルミ板の上に岩絵の具を塗り乾かし、水はけで流しとる制作をされています。

光を吸収する和紙と異なり、アルミ板は光を反射して淡く発光し奥行きを感じさせます。光を帯びた画面は水中あるいは空のような透明な空間を思わせます。目はイメージを求めて不鮮明なそのかたちを追って、はけの跡、顔料の痕跡の濃淡、画面の細部をさぐります。「日々の心象の映し鏡として存在できれば」と小野さんが話す作品画面は、鑑賞者それぞれの景色が立ち現れ、それは時によっても変化するといえます。

22日までギャラリーパリ（横浜市）で小野さんの個展が開催されています。

（大谷）

《名画の扉》

大川美術館2024年新収蔵作品から

